

1. 教育方針

香川短期大学は、生活文化学科（生活文化、食物栄養及び生活介護福祉の3専攻）、子ども学科第Ⅰ部、子ども学科第Ⅲ部、経営情報科及び専攻科（福祉専攻）の4学科・1専攻科の構成で、在学中に栄養士・保育士・幼稚園教諭二種などの免許や介護福祉士の国家試験受験資格を取得できるようカリキュラムを設定している。なお、経営強化の観点を踏まえ、来年度から生活文化専攻と経営情報科のコース名の変更とともに、司書資格、観光ビジネス実務士など多くの資格取得ができるよう、カリキュラム内容を大幅に変更し、専攻科（福祉専攻）を廃止する。また、「愛敬誠」の建学の精神に則り、幅広く深い教養を培い自主・自立の精神を養うとともに、豊かな人間性を涵養し、それぞれの専門とする分野の知識と技術の向上を図って、地域社会に貢献できるよう人材を養成、そして地元企業での定着を促進させる。さらに、産官学連携・地場産業の振興支援や子育て支援、老人福祉施設・障害者施設の奉仕活動及び地域住民の様々な活動に対して施設の開放や、生活に密着した公開講座の開設等、大学COC機能を強化、地（知）の拠点として地域を志向した教育・研究・社会貢献を目指した。

2. 事業報告

(1) カリキュラムの改革

- <専門科目>○生活介護福祉専攻課程：『医療的ケアⅠ』及び『医療的ケアⅡ』の「※印の科目は、法令改正に従う」を削除、資格名「介護福祉士」を「介護福祉士国家試験受験資格」に改正した。
- 子ども学科第Ⅰ部及び子ども学科第Ⅲ部：『児童館・放課後児童クラブの活動内容及指導法』の科目を新設、その他文言の修正及び『音楽（応用）』等の科目を廃止、『教師論』を『教職概論』等、科目名や単位数の変更を行った。
- 経営情報科：『データ活用スキル応用』、『PC文書作成スキル基礎・応用』、『プロダクトデザインⅠ』、『ビジュアルシンキング』等を新設、『簿記原理』を『簿記会計基礎』、『広告表現論』を『写真と広告』等、科目名の変更を行なった。
- 専攻科（福祉専攻）：修了要件単位数を「54単位」から「58単位」に改正、『医療的ケアⅠ』『医療的ケアⅡ』を選択科目から必修科目に、併せて介護福祉士資格必修科目に変更した。
- ※共通科目、生活文化専攻課程及び食物栄養専攻課程の変更なし。

(2) 自己点検・評価等の実施

- ①鳥取短期大学との相互評価「自己点検・評価報告書」は、平成27年度実施の相互評価（鳥取短期大学）の相互評価実施報告書を以て代替とした。なお、鳥取短期大学とは、平成28年度以降も、継続し相互評価を行うことを確約した。
- ②平成28年度「香川短期大学教育推進協議会」（外部評価）を開催し、「創立50年に向けて本学の在るべき姿 ー大学改革と機能強化ー」をテーマに、学外の有識者委員から、意見・提言等を頂き、大学運営に反映させた。特に、高等学校校長の学科、専攻等について高校等へのアピールの方法についての意見は参考となった。さらに、産官学連携・地場産業の振興支援や子育て支援、地元企業での定着化の促進などについて、意見交換を行った。
- ③「学生による授業評価」を実施し、教員の授業におけるスキルアップと改善、授業へのフィードバック、学生の授業に対する要望や満足度の調査・分析を行った。これにより、教員個々の指導力及び指導方法の改善がみられた。
- ④「学生生活実態調査」を実施・分析し、学生生活満足度の向上を図った。また、平成23年度から学生ラウンジに意見箱を設置、学生の不満や要望等の情報を収集・分析し、その対応等を行った。特に、学生食堂も単なる食堂だけでなく、学生同士の憩いの場として機能している。

(3) 職員研修（教員・事務職員等）の実施

教員・事務職員の能力開発のため「四国地区教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」に加盟している。そのプログラムとして講師を招聘して「学生の主体性を促す学習支援」と題しての研修と、また、教員独自の研究発表として「アクティブ・ラーニングの基礎と実践について」、演習形式の「シラバスとDPの関連づけによる、PDCAサイクルの実質化、「大学コンソーシアム京都フォーラム」の、①研究倫理の不正防止②大学の現状と動向③教務の最新を知る等、の伝達講習を行った。さらに、大学間連携として、本学会場の「リスクマネジメ

ント」と鳥取短期大学会場の「ビジネスマナー」対面マナーとクレーム対応についての研修には、少人数ではあるが、お互いの職員が受講した。その他、学会や各種研修会への参加も促し、職員個々の研究活動・教科の指導力及び事務能力の向上を図った。

(4) 学生支援、学習環境の整備

- ①アクティブ・ラーニングを念頭に、学習環境の整備として各教室の机・椅子を最新のものに更新した。また、懸案であった学生食堂改修工事や内部備品等（スチームコンベクションオープン・空調機完備）も完了し、多くの学生で賑わうようになった。食事だけでなく、学生同士の語らいの場所としても有効に機能している。また、栄養棟実習室・汚水排水改修工事、栄養棟高圧気中開閉器修繕工事や1F講義室のプロジェクター・プロジェクター、6F講義室の教室遮光カーテン、2～5Fまでのエレベーターホールクロスの張り替え及び学生第一駐車場看板修理内部壁の修理、講堂ホール壁修理、6F女子トイレ水漏れ、ドア修理・ドア隙間修理修繕等を行った。さらに、食物栄養棟の食器棚・ガラス扉改修、子ども学科プロジェクター取替、プリンター修理等を行った。
- ②大学間連携では、8月に従来、相互評価の相手校である鳥取短期大学と、大学間連携の調印締結を行った。特に、鳥取短期大学において、合同オープンキャンパス（学生募集）を実施した。すでに、締結を済ませている、帯広大短短期大学には11月の大学祭（帯広）に学生3名学生と教員1名が帯広の学生や職員と交流を行った。平成29年1月にはこども劇場の見学や、図書館見学を主として、7名の学生と3名の先生が本学を訪問した。
- ③入学前の教育フォローと就職進学相談（キャリア支援）等の学生支援に取り組んだ。特に、多様な学生への支援とともに、休学・退学者数減少のため、室長他非常勤の相談員4名を配置する等、カウンセリングルームの充実を図った。
- ④本学創立50周年事業（式典）に向けて、懸案であったロゴマークが完成し、大学祭でお披露目を行った。記念寄附についても着々と目標金額に近づいている。

(5) 大学の地域貢献等

- ①宇多津商工会とそれぞれが保有する資源を活用して、広範囲な教育・研究面の向上や地域企業の課題解決等地域振興に貢献することを目的に「包括的連携・協力協定」を締結した。
- ②「産・官・学・民」連携事業： 公益財団法人かがわ産業支援財団の助成事業として、製造技術開発、レシピ開発の分野で研究協力に取り組んだ。また、地元の素材を活用した健康食品「健康の維持・増進に役立つ麺類」などの受託研究等も行った。
- ③地域との交流拠点である「地域交流センター」は、宇多津町と連携し本学の諸施設を有効に活用し、公開講座やカルチャー講座を開設。継続事業として平成相聞歌、アロハナイト等の行事を主催・共催した。また、「こども劇場」は子育て支援の一助として、介護福祉の分野でも新しい企画を提案する取り組みを行うなど、地域社会の知的基盤としての役割を果たした。このような、本学学生や教職員の地域社会への取り組みや、ボランティア活動の具体の記事として掲載している「Katan Clover Vol.6」を発刊し、地域社会に情報発信した。
- ④「香川県大学等魅力づくり補助金」を活用して、「生活文化専攻・食物栄養専攻インターンシップ」、「ビジネスマナー甲子園」、「お弁当の日甲子園」、「保育出前講座」、「PC検定研修会及び支援制度導入」の様々なプロジェクトを実施した。

3. 継続実施事業及び今後の検討課題

- ①本学組織改革の具体の検討と実施（魅力ある大学づくりに向けて）
- ②本学創立50周年実行委員会の結成と、記念式典の実施や記念誌・記念紀要等の作成
- ③高大連携（接続）の強化と学生確保（留学生・社会人）の対策及び国際交流の推進
- ④大学間交流（帯広大谷短期大学・鳥取短期大学）の推進（学術交流、学生・教員の交流等）
- ⑤アクティブラーニングを念頭に、学習環境の整備、施設・設備の改修等（ラーニング・コモンズ、各教室の整備、コンピュータ実習室、学生食堂、トイレ等）
- ⑥学務システムによる学生カルテ（学習ポートフォリオ）の充実及び各部署等との情報の共有
- ⑦大学情報公表（大学ポータル）の徹底と大学内外への情報発信の強化及びHP等の充実
- ⑧外部資金獲得の推進・強化（「地域創生事業関連補助金」、「科研」、「特別補助」、「寄附金」、「事業収入等」の検討）
- ⑨大学COC（Center of Community）機能の強化（大学と地域（産・官・学・民）との連携）
- ⑩地震防災・減災対策の推進（県・宇多津町等防災・減災対策の具体化を検討及び備蓄等の整備）